

関西支部第37回夏季大学報告

関西支部第37回夏季大学を、2015年8月22日（土）に、京都テルサ東館3階大会議室において、大阪管区気象台及び日本気象協会関西支社の後援で開催しました。今回は「熱帯気象と大気海洋相互作用」をテーマとし、時長宏樹氏（京都大学白眉センター/防災研究所 特定准教授）「熱帯太平洋が引き起こす気候変動」、高藪 縁氏（東京大学 大気海洋研究所 教授）「熱帯積雲対流のマルチスケール構造をとき解す～雄大積雲からMJOまで～」、別所康太郎氏（気象庁 気象衛星センター データ処理部 システム管理課長）「ひまわり8・9号がひらく新しい気象学」の3講義を実施しました。

講師の皆様は、それぞれの専門分野の最新の研究成果を、カラフルな図面や動画を使って分かりやすく講義して下さいました。第一講義（時長氏）では、気候変動における大気海面相互作用の重要性と、その具体例としてエルニーニョ・ラニーニャ現象及び数十年スケールの気候変動現象について解説して頂きました。第二講義（高藪氏）では、マッデン-ジュリアン振動(MJO)の構造及びメカニズムについて、衛星データ

や数値シミュレーションの解析結果を基にして詳細に解説して頂きました。第三講義（別所氏）では、2015年運用が開始されたひまわり8号（及び9号）の特徴を紹介して頂くと共に、これらの衛星が切り開く今後の気象学研究の可能性について語って頂きました。

受講者も大変熱心に聴講され、講義後の質疑応答では、素朴な疑問から専門的な議論まで数多くの質問がありました。受講後のアンケートでは、回答率が前年度比で10%増加しており、今回のテーマに関する受講者の関心の高さが伺えました。受講者の内訳は、公務員（教員含む）、会社員・自営業、学生（高校生・大学生・院生）、その他で凡そ4分の1ずつであり、学会員と非学会員は1対2の割合でした。受講者の約9割が、講義数及び講義時間について「適当」と回答していますので、来年以降も今回の形式を大きく変化させる必要はないと考えています。

最後に、多大な協力を頂いた後援の機関及び講演頂いた講師の皆様には厚くお礼申し上げます。

（関西支部）